

STUDIO KOMA

Vol.3

The Mailgraph of Monthly Publication

2000.DEC.31

PHOTOGRAPHS WITH TEXT
TATSUANG / TATSUYA ATARASHI

© 2000 Tatsuya Atarashi

TATSUANG

武州御岳山

山岳信仰の山、御岳（みたけ）山。概念図では東京都・奥多摩の山だが、わたしの暮らす埼玉県・奥武蔵にもほど近く、自宅周辺から容易に望むことができる。冬型の気圧配置が安定すると、関東地方は晴天が続く。日溜まりの中、のんびりと周遊路を散策してみた。



修験の山 標高929メートルの御岳山山頂に建つ武蔵御嶽神社。736年、行基によって蔵王権現を祀られたのが始まりとされる。一方、周辺の里山にはオオカミが多数生息していたことから、秩父の三峯神社、両神神社などとともに眷属信仰が盛んで、現在も御師によって毎年、大口眞神のお札が我が家に届けられる。オオカミは山の神としての意味合いが大きく、オオカミの通り道と里山道との接点には祠が祀られていることが多い。

御嶽神社への参道沿いには神代櫓（国天）が異様な風体で仁王立ちしている。目通り8.2メートル、推定樹齢600年とも1000年とも。今にも動き出しそうなその姿は、山上より関東を一望に見守る神の姿を彷彿させる。



神代櫓（上）。表紙は山中で見かけたケヤキ。目通り3メートルほどだが、姿が美しく、太古の森の繁栄を偲ばせる。



水と木と石と

— 陰と陽 — 母なる胎内への回帰 — 命の源 —

其は宇宙の根源なり

闇を照らす光の回廊なり

未来への希望なり

常世への道なり



木を俯瞰する 概ね伐採と植林の進んでいる御岳山中ではあるが、ロックガーデンなどと無粋な命名を受ける上養沢沿いでは、ところどころで巨樹を見ることができる。「お浜の桂」近くで出合ったケヤキは斜面にあるため、容易に登ることができた。自然保護団体に見つかりと叱られそうだが、木は登ったり触ったりして木なのである。勿論、登る前にしっかり木に挨拶するのは言うまでもない。勝手な言い分かも知れないが、こちらにきちんと関わりを持つ気持ちが有りさえすれば、自然界はきっと受け入れてくれると信じている。